

CS-40

8 月末豪雨と災害広報

建設省関東地方建設局 正会員 甲田知正

建設省関東地方建設局 三橋さゆり

はじめに

台風 4 号に刺激された停滞前線により、8 月 26 日から 31 日まで栃木県北部を中心に雨が降り続き、流域平均総雨量は 446mm、特に上流部の大沢観測所では総雨量 1,091mm と年間降雨量の約 3/4 という記録的な大雨となった。那珂川下流部の直轄区間では水府橋の無堤地区を中心に広い範囲で浸水被害が生じた。

1. 那珂川下流部の出水状況

8 月 28 日 14 時に計画高水位を超える最高水位 8.43m を記録し、29 日は一旦警戒水位を下回ったものの、再度の降雨と増水により 30 日 20 時 30 分に再び 8.20m の水位に達した。約 5 日間もの長い間の前線の停滞の影響を受け、2 度のピークを迎える変則的なものであった。

この出水により、那珂川直轄区間では浸水面積約 1,726ha、浸水家屋は床上 436 戸、床下 575 戸の計 1,011 戸にも及んだ。

2. 出水時の主な活動

今回の出水に対応して、関東地方建設局では、各河川の水位動向に注意し巡視を強化するとともに、必要に応じて次の対応を行った。

- ①水防団等に水防の準備、出動を要請する「水防警報」を発令（那珂川では 152 時間で 143 回）。
- ②マスコミや都県市町村など関係機関に対し、気象庁と共同して「洪水予報」を発表し、水位・気象状況の情報を提供（那珂川では 6 回）。
- ③排水ポンプ車、照明車の派遣。
- ④栃木県及び日本道路公団等への備蓄材 の提供。

3. 的確な洪水予報の発表

那珂川下流部の水戸市では、床上床下あわせて 557 戸住宅が浸水したが、2 度のピークともその 10 時間前に洪水予報を発表し、迅速な情報提供に努めた。これらの情報は水戸市による沿川住民への避難勧告等に利用され、円滑な避難誘導により被害を最

表－1 那珂川上流の降雨状況

河川名	観測所名(所在地)	累加雨量	H9年間総雨量
余笹川	大沢(栃木県那須町)	1,091mm	1,465mm
	黒田原(栃木県那須町)	787	1,212
那珂川	板室(栃木県黒磯市)	741	1,860

表－2 出水による被害

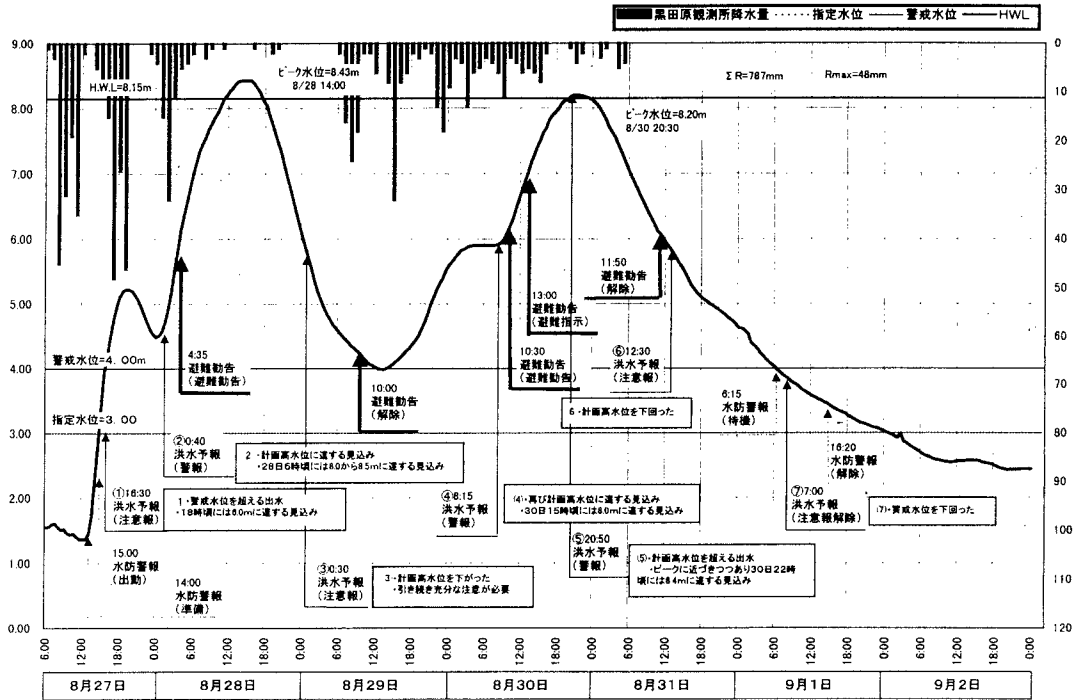
項目	平成10年 8 月末出水	昭和61年出水
水府橋水位	8.43m	9.15m
浸水面積	1,726ha	4,117ha
床上浸水戸数	436戸	2,860戸
床下浸水戸数	575戸	720戸



写真－1 水府橋付近被災状況

キーワード：洪水予報

〒 100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-1 大手町合同庁舎第一号館 TEL 03-3211-6261 FAX 03-3211-4887



図－1 水府橋水位と洪水予報

小限に押さえ、人的被害を免れた。（那珂川は洪水予報指定河川に平成 8 年 3 月 22 日に指定されている。）

4. その他の災害広報

①河川表示板

水府橋地点に設置されている河川表示板にて、大雨洪水等の予警報ならびに水位情報を表示した。

②電話応答装置

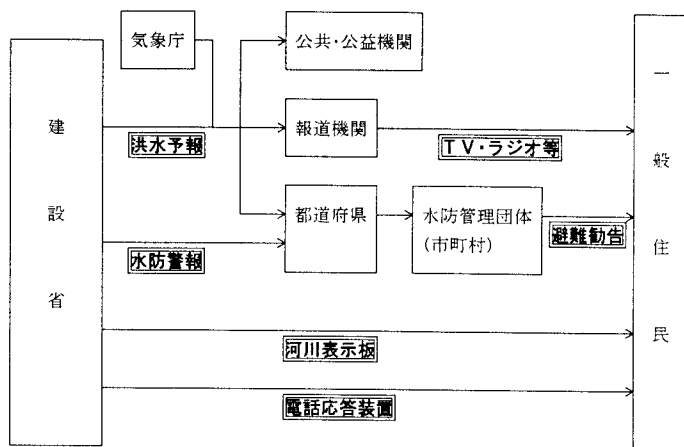
常陸工事事務所に 4 回線設置し、毎正時データを一般市民に提供した。

③その他

都県や自治体に対しては、河川情報センターを通じて水位情報を提供している。また必要に応じ、関係団体と電話連絡等で密な情報伝達に努めた。

5. 今後に向けて

洪水予報については平成 11 年度より気象庁とオンラインで作成が可能となり、よりわかりやすい様式と記述に改訂する予定である。また、洪水予報以外にも、各種報道機関との連携による災害情報提供体制の強化について検討を行う予定である。



図－2 災害広報の流れ